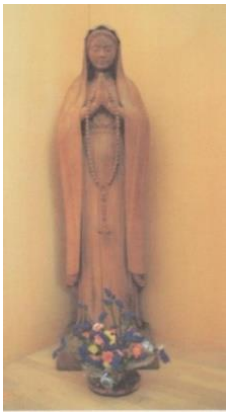
7 月報(2022 年) 萌　カトリック福山教会

福山教会活動テーマ：
「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808　福山市昭和町 7―26
☎【084】923-0614　FAX【084】923-0615
e-mail ：fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

【尾道教会の３つのマリア像】（尾道教会マリア祭によせて）　尾道教会より



聖堂内の木彫りのマリア像

尾道教会にはマリア像が３体あります。１つは玄関前、もう１つは玄関内、最後の１つは聖堂内です。

まず、玄関前は「貧しき者の聖母」のマリア像で、ベルギーのバヌーにご出現になられたマリアさまの像です。これは福山教会の元信徒会長の賀来泰男さんが出張先のベルギーで出会い、行き先がないことに心を痛め取りあえず日本に運び、それを尾道教会が譲り受けたものです。この話が来たときは、皆大喜びで、庭に台座をつくりこのマリア像を迎え、５月に第１回マリア祭を幼稚園の園庭で盛大に行いました。これが尾道教会マリア祭の原点です。

玄関内のマリア像は、2008 年の献堂式の際に、当時の広島教区司教、三末司教様から頂いた、有名なルルドのマリアさまの像です。

聖堂内のマリア像は、当時主任司祭だった木村神父様が聖堂内に是非マリア像が欲しいということで、安佐北区在住で全国的に有名な彫刻家の沖田利紀さんに制作を依頼したものです。それはクスノキの木彫りのマリア像です。利紀さんは彫り始めた時は、家族の中で唯一信者ではなかったのですが、ちょうどロザリオを彫り込んでいる時に「洗礼を受けようか」と言われ、それで家族みんなが信者になったそうです。この木彫りのマリアさまは優しい日本人の姿です。

この３体のマリア像を尾道教会に来られた際に、ぜひ自分の目で確かめてください。

【御言葉のおすそわけ】―マタイ福音書 9 章―　パウロ会ブラザー阿部

『わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。』

今日は、イエスの言葉に慰められました。私ももちろんですが、皆さんも、このイエスの言葉に力付けられたと思います。当時、イエスのまわりに集まって来た人々は、みな、罪人であり、心に傷を負った、癒しを求めている人々でした。今日の福音書に登場する徴税人マタイは、「わたしに従いなさい」というイエスの一言で改心し、すべてを捨てて、イエスに従ったのです。

私たちは生活の中で、イエスに出会っているでしょうか。
改心を呼び掛けるイエスの声を聞くことが出来ているでしょうか。

イエスは日々、呼び掛けておられるのです。
大切なのは、そのイエスの声を、私たちの心に受け入れる準備が出来ているかということです。
　今日は、福者ペトロ岐部と 187 人の殉教者の記念日です。ペトロ岐部が、殉教者たちの模範となって殉教の道を歩むことが出来たのは、なぜでしょうか。
　私の思いですが、それは、「弱さ」ではないかと思います。「弱さ」ゆえに、キリストによりたのみ、弱さゆえにキリストの恵みが豊かに注がれたのでしょう。
　私たちは、神の前には本当に小さく、貧しい者です。毎日、自分の弱さに苦しみ悩みます。そんな時は、イエスの十字架の苦しみを見つめましょう。その時こそ、神さまから恵みを受けるチャンスなのです。
　世界の指導者たちが、この恵みに気付き、なお互いが、弱さを持ち、神さまから恵みを受けた、神さまの子どもであることに気付き、その心が、平和の実現に繋がりますように。

【福山教会の思い出】　　**中村　孝洋**

　私は 2015 年 10 月より妻（中村杏子）と東京都中央区で暮らしています。現在はカトリック築地教会に転籍し、教会に通っています。
2008 年 4 月、母（中村澄子）の帰天後、別場所に建立されていた「中村家墓」を奈良津のカトリック福山教会・共同墓地（以降「共同墓地」）へ改葬（墓の移転）しました。そして 2009 年より共同墓地の墓地委員を委嘱されました。この共同墓地は公営墓地（福山市）のため、必要に応じて福山市との協議を重ね、2012 年より次のような事項を整理しました。
　①共同墓地利用者による「墓地運営に関する意見交換会」の開催
＊墓地周辺の環境整備は「一部の利用者に委ねられており、負担がかかりすぎる」との意見が多く、年間維持管理費（墓地献金）について採択される。
　②「墓地運営企画実行委員会（及びアドバイザー)」の設置
　●実行委員／中村孝洋・橋本栄光・山村悟美・菅原美佳・大塚睦雄・細井素子・Sr 高戸千代・荒木泰三
　●アドバイザー／種本久雄・三宅光三・河内章子・作田健治）
　●相談役／山口道晴神父
＊「墓地運営企画実行委員会」にて下記③～⑨について協議
　③「奈良津共同墓地使用規定」の改訂
　④共同墓の建立
「共同墓」は「納骨堂」に代わる代替案で行政との度重なる交渉で設置許可

　⑤区画墓の拡張工事計画
　⑥無縁墓（塚墓）の設置
　⑦墓地周辺の環境整備（樹木伐採、剪定）
　⑧墓地配置図の新規作成（
　⑨特別会計の勉強会
　当時、教区の事務局長だった原田神父を招き、宗教法人の会計処理について学習

（墓地献金の口座設置）
　以上のようなことが私の記憶に残っている内容です。２０１３年の墓地の大改造の際には墓地利用者や利用されていない信徒の皆様から多額の献金をして頂き本当にありがとうございました。
現在は大塚睦雄さんを中心に共同墓地が整備され、墓地ミサも年数回開催されるようになっていることを感謝しています。

【信仰を生きる】　　**森淵美代子**

　私は、佐世保市黒島のカトリック教会で、幼児洗礼を受け、いつも日曜日のミサや祝日に、聖変化の時にオステンソリウム(聖体啓示台)にホスチアを入れて会衆に示し、中学の時、大行列をして祝ったことをいつも思い出し、福山教会ではないのかな？オステンソリウムないのかな？オステンソリウムを見たことがないな～小さな教会にはオステンソリウムはないのかな？と時々そう思っていました。

　コロナで長い間、日曜日のミサにご無沙汰していたのですが、6 月 19 日の日曜日のミサにどうしても行きたくなって行きました。皆さんに「元気だったぁ～？」と声をかけて頂き有難いなと思いました。でもそれ以上にびっくりしたのが、ミサの後、神父様がオステンソリウムを祭壇の上に置き「随分前は福山駅の方から聖体行列をしていたらしいけど、今はそんな事も出来ず今日は教会の中で時間のある人はお祈りしましょう」と言われ、長い間思っていた事が目の前で…。

　何という日、何という自分にとって良い日曜日なんでしょう。神様は神父様を通して私の思いを叶えて下さったのだと、心から感謝のお祈りをしました。やっぱり、福山教会にもオステンソリウムはあったんだと思い、又どんなに小さな教会でも神様にお祈りを捧げるのは一緒だもんねと、自分に言い聞かせ、幸せな一日でした。

　それから 4～5 日たって、弟を歯医者に連れて行く途中、車の中でその事を話したら弟は「自分が二十歳頃、一度福山でその行列に参加した事があったなぁ…そう言えばあれっきりだったと思うよ」なんて話ながら、昔と今は随分いろいろ変わったねぇなどと、小さな頃の朝ミサの事など話しながら、私はもう二度とオステンソリウムに御目にかかる事はないと思っていたのに、神様は神父様を通して私の思いを叶えて下さったのだと有難く、そして幸せな一日を過ごすことが出来、又弟も信仰の話をする事が出来たのも、神様からのお恵みを一杯頂いたようで幸せな一日を送らせていただいたような気持ちでした。

【望み】 **マリア・セシリア松坂慈子**

原稿を頼まれた時、この 11 月で 77 歳になる私は考えました。次にお願いして下さった時にはもう書く元気はないかも…と。なのであまりお話し出来ていなかったもろもろを、教会の同志の皆さまにならお話し出来るかしらと思い…。

私が洗礼を授かったのは暁の星の高 1 の時でした。幼い頃から理不尽な思いをされている方に変に同情的な子どもでした。多分二つ上の姉のいたずらがひどく、閉じ込められるのを可哀そうに思ったりがそうした性格を作ったのかしら…と。てんかんの友人の面倒をみたり、母子寮にいる友人と一生懸命遊んだり…。

そんな気の優しい娘が高校生の時、山上の垂訓に参ってしまったのです。この世界でしか生きて行けない人間かもと確信したのです。

当時、女の子は学校を出たらお嫁に行くことがあたりまえと考えられていました。けれど、青島かどこかの僻地教育なら出来るかもと都の教師の試験を受けようとしていましたら、父と母に連れてこられました。修道女になることをどこかで望んでいた私をお見合いさせ…。

子どもを三人授かったのですが、大変な強い性格の母や主人の下、自分さえ我慢すればとの思いがとんでもないことに…子ども共々精神的に落ち込んで大変なことに…

主人が亡くなってからも(主人も長く一緒に生きていたせいか、晩年は困っている人を助けてあげたいと、何も残らないくらいの事をしてしまったのです)残してくれた僅かなものまで…。

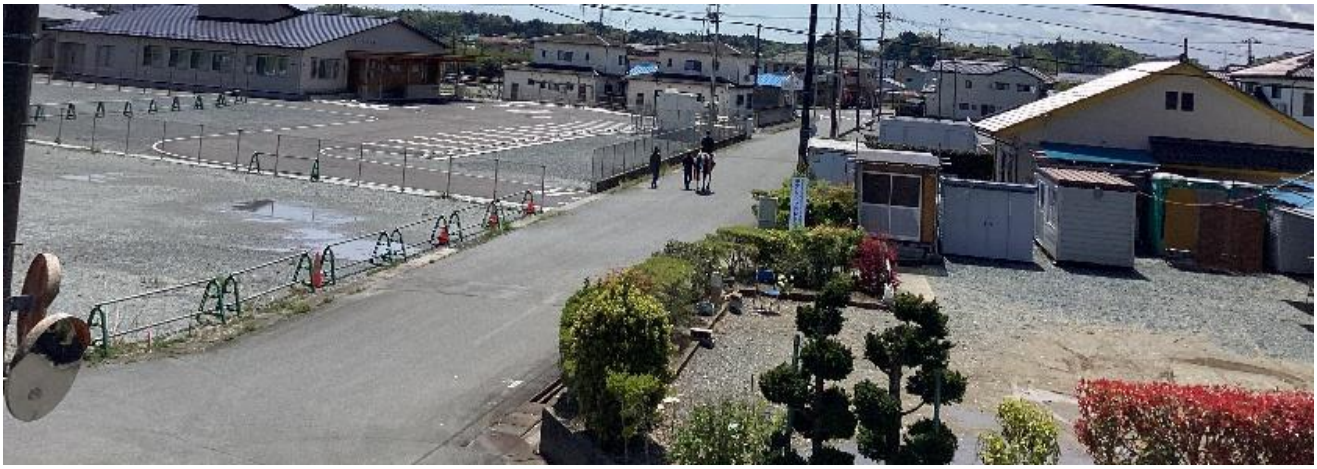
そして今でも何かあっても自分を責めてしまい、たとえどんな人でも…色んなことがその人をそうしてしまったに違いないという風に考え、困っている人、弱い立場にいる人に何かしてあげねばと…たとえ自分が困っても手を貸す自分がいるのです。神様に祈りながらそうしている自分が…。でも不思議なことに、いつも何らかの助けの手を出して下さる神様がいて下さいます。77 年生きて来てこれだけは胸を張って大声で言えます。望みはマンデラさんのように、出来ることなら死ぬまでキリストの愛に射貫かれた我魂の指導官であり続けることです。

【南相馬便り】㊷ **援助マリア修道会南相馬修道院 北村令子**

5 月号を送った日の前々日、山の方では雪が降り、朝、通勤の道々、遠い山に雪化粧を見たのに、もう真夏日となってきました。皆様お元気でしたか？

異常気象で最速真夏日を更新していますが、気分は爽快と思いこませて前進！！

古い話になりますが、GW 中のこと、パッカパッカという耳慣れない音が聞こえ、何だろうと思ってベランダから外を見ると、お侍さんの格好をして陣羽織を着た若者が馬に乗って通り過ぎていきました。気が付いた時は時遅しで、修道院の前を通り過ぎて後ろ姿しか見られませんでした。周りを数人が徒歩でついて行きました。写真を撮ればよかったのに、後ろ姿になっていたので諦めました。しばらく仕事に没頭していると、また音が聞こえてきたので外を見ると、今度は背広を着た男性が乗っていきました。残念なことに修道院の前を通らず、すぐ大通りの方角へと通り過ぎました。これも気づくのが遅く、時遅しで、遠くの後ろ姿しか写真に撮れませんでした。小高のホースシェアリングのグループの活動（８月号で紹介します）なのか、本当に残念でした。今年は野馬追が見れるかしら？



遠くにお馬さんの後ろ姿。修道院のベランダから右手の駐車場と建物が小高診療所、左の建物が松本ボランティアセンター。連休中ボランティアの方が来られて、軽トラックが出払っていて１台も無し。

今日は小高で三重の被害を受けられた方で、南相馬市の市議会議員をしておられる方の自費出版通信「なじょしてる」（A4 紙）に載せられた記事（被災者の生の声）をご本人の了解をいただいてお届けします。

生業（なりわい）訴訟の最終意見陳述書から抜粋

（前略）私は、「命を支える食」をつくる専業農家として親子で共に時間を過ごし、協力し合える生業に誇りを感じていました。2011 年 3 月 12 日、原発事故に伴い、私は当時 2 歳と 6 歳の娘、妻と共に『生きる場』から逃げ出しました。私は、大学時代を過ごした愛媛県を避難先に選び、再び農業に取り組み「普通の暮らし」を取り戻そうとしました。しかし、うまくいきませんでした。

「子供たちをどう守るか」「いつになったら帰ろうか」「…」　・・・　私たち夫婦はことあるごとに意見がぶつかり合うようになり、心が分断されていきました。結局、未来に対する妻との意見は一致せず、2019 年に離婚に至り、子供たちを守るために選んだ愛媛での暮らしは崩壊しました。…（中略）　家族が崩壊する１年前に当時中学一年生の長女はこんな作文を残しています

【「普通の生活」。普通にご飯を食べて、普通に学校へ行って、普通に帰ってくる。本当にごく普通の生活。そんな生活が、私はうらやましい。普通の人ならもっと上を目指すだろう。でも、もう私には普通の生活を目指すことさえできない。

あの日、私の普通の生活は消えた。そして楽しみまでも消えていった。でもその代わりに「東日本大震災、3.11」という言葉が生まれた。「福島第一原発事故」というとても耳障りの悪い言葉と共に・・・（中略）

「福島第一原発事故」。この出来事がすべてを変えた。地震と津波。それだけでも被害が重大である。でもこの事故には、それらと違う苦しみが隠されていた。「生き地獄」である。この事故を何年も何年も引きずり、苦しめられ、普通の生活に戻れない。それが「生き地獄」である。放射能について何も知らなかった私が、放射能というものの恐怖を、初めて知った出来事だった。（以下略）】

今回の裁判は当時の科学的知見と規制の整合性・妥当性が主としての争点になっているものです。しかし、私たち避難者がこの裁判を起こした理由は、別のところにあります。私たち避難者は、苦しみと怒りの声を上げました。例えば、「経済的にとても苦しい」「家族みんなで暮らしたい」「期待しても絶望だけ」「国に避難する権利を認めてほしい」「もっと真摯に向き合ってほしい」「3.11 原発事故の真相を言ってほしい」「国は守ってなんかくれない」「やはり黙っていられない」などです。（中略）

先日、13 歳の原告である次女に「裁判の事どう思ってる。（中略）どう終わったらいい？」と聞くと、「国が皆さんのために上告を諦めますというのはダメだよ。国は自分の責任を認めて、ちゃんと謝って欲しい。そして最後には、避難している人も、東電も、国の人も、みんなに幸せになって欲しい。」と答えました。私は反抗期の娘がそんなふうに思っていることに驚きました。

そんな次女は、微生物学者になって、夢は「微生物によって放射性物質を取り除くこと」と言います。ちなみに長女は、臨床心理士になりたいと言います。そして将来の夢は,「生きていくのがつらいという人の話を聞いて、生きる希望を与えること」と言います。

私は、そんなことを考えている「夢見る少女たち」を頼もしく思うとともに、そんな思いを、挫くような大人には、決してなるまいと思います。

痛みを受けた若者たちは、様々な疑問を感じつつ、まともな社会を望んでいます。認めること、誤ること、許すこと、助け合うこと。どうしたら事故後の救いになれたのか。

私たち大人は、痛みを受けた子ども達の思いを道しるべに答えを探し、「人の痛みから眼を背け、声を上げても放置する。そんな社会を『融和の世界』に変えた転換点。それが福島第一原発事故だった」という過去を、一刻も早く創らなくてはなりません。

記事はまだ続き、訴訟の中身については、次の機会に譲り、今回は被災者のある方の、現在の思いをお伝えしたかったのです。

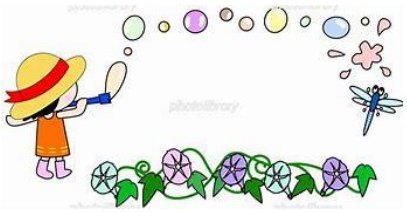
【夫津木義孝さん　第五句集出る】

長年俳句の道を歩いて来られた夫津木義孝さんが「救いと喜びと義と」と題した第５句集を今年１月世に出されました。
本日はその中から春に関係した３首を紹介します。

- **暖かさ 感じるような 寝起きかな**
- **核兵器 持たず持たさず 春深し**
- **悪挫く 死去も安堵に イースター**

【帰天のお知らせ】

・マリア　西原明美様(83 歳)
・ザベリオ　三村敏雄様(91 歳)
謹んでお知らせします。どうぞ心を合わせてお祈りください。



７・８月の行事予定

７　月		８　月	
17(日)	街頭募金 終業式	5～6(土)	広島平和行事
24(日)	パウロ会聖品販売	8(月)	福山空襲追悼
30～31	日曜学校キャンプ(予定)	9(火)	長崎原爆の日
31(日)	7 時墓地ミサ(雨天 8/7)	14(日)	猪口神父様霊名のお祝い
		15(月)	終戦記念日

７月号ができあがりました。今回も多くの方々のご協力によって、さまざまな記事があつまりました。ありがとうございます。
私たち委員会のメンバーはみなさんに楽しく興味深く読んでいただけるよう内容を考えあって話し合っています。これからも皆さんにいろいろ原稿等のご依頼をいたしますが、よろしくご投稿いただければ嬉しいです。　(T・N)　　月報委員会